令和1年度事業報告書

自 平成 31 年 4月 1日 至 令和 2年 3月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告	• • • •	• •	• •	• •	•	3ページ
たのしいどう	事業報告				• 1	8ページ
きっちんどう	事業報告				• 2	6ページ
あかるいどう	事業報告				• 3	3ページ
わくわくどう	事業報告				• 4	3ページ
歩~夢 事業	報告・・				• 4	9ページ
楽らく事業報	告•••				• 5	7ページ

令和1年度 法人事業報告

◇はじめに

~令和1年度事業の総括~

平成31年度(令和1年度)は、社会情勢や様々な制度改正に大きな変化がある年であったことから、様々な取り組みを要する年となりました。改元による新元号の誕生や消費税増税の実施とその対応、労働基準法や健康増進法、食品衛生法、食品表示法等の一部改正。福祉・介護人材の確保定着のための制度対応等、当法人が実施する事業に大きく関わってくる制度への対応に迫られ、事業を安定的に実施するための制度の理解と必要な措置に努めました。

また、社会福祉法人として地域公益事業の一環として「こども食堂 放課後れすとらん」の実施に取組み、年4回の実施を通して、学生ボランティアの育成も含めて地域貢献活動を行ないました。これらの取組みに加え、継続的に重点事項として取り組んできた「中・長期計画の立案及び事業再編」と「福祉人材の確保と育成」も加えた以下の4点を重点事項として取り組みを行ないました。

- 1. 制度改正における対応と準備
- 2. 地域公益事業の実施
- 3. 中・長期計画の立案及び事業再編に向けた検討
- 4. 職員の人材確保・育成
- 1. 制度改正における対応と準備
 - ①消費税増税に対して
 - ○消費増税による就労事業の売価等の見直し
 - ○消費増税による設備整備や物品購入等の経費節減に向けた対応
 - ②労働基準法の一部改正に対して
 - ○有給休暇の計画的付与への対応等
 - ③健康増進法の一部改正に対して
 - ○受動喫煙防止への対応
 - ④食品衛生法及び食品表示法の一部改正に対して
 - ○食品製造における衛生管理の見直しと環境の改善(HACCP の導入等)
 - ○就労事業における食品表示(成分表示・アレルゲン表示・栄養成分表示) への対応

- ⑤福祉・介護人材の確保定着に対して
 - ○福祉・介護職員処遇改善加算における新加算の取得に向けた学習と検討
 - ○10月実施の消費増税に伴う職員の人件費等への対応(昇給の検討)

2. 地域公益事業の実施

○地域の子供達を対象に「こども食堂 放課後れすとらん」の企画・運営

3. 中・長期計画の立案及び事業再編に向けた検討

- ○実施する福祉事業及び就労事業の計画策定に向けた調査と検討
- ○地域生活支援の住環境の整備に向けた検討

4. 職員の人材確保・育成

- ○人材確保のための職場環境や待遇の見直しに向けた検討と魅力の発信
- ○内外の研修実施と仲間づくりを通じた職員育成

■役員会運営

令和1年度は理事会を6回開催しました。定款の定めにより、理事・監事の任期満了に 関わる役員の改選を行ない、全理事・全監事が再任となりました。任期は令和3年定時評 議員会終結時までとなります。

開催された理事会では、職員の働き方改革を推進していくため、職員の年次有給休暇取得の促進と年次有給休暇の付与に係る規程の改定と、給与計算の締め日と支払日の変更について規程の改定を行ないました。

10月からの消費税増税に対応するため、キャッシュレス対応や法改正の具体的中身を学習するため外部講師を招いて研修会を開催し、役員だけではなく職員も参加し知識を深めました。

空知総合振興局5階で運営している「そらかぜ食堂」について、振興局庁舎の改修工事計画のため、工事中の休業を通告された件について、理事会として振興局側と3度にわたる意見交換を行ない、対応について情報共有を行ないました。

法人の地域公益的な事業の一環として令和1年度から子ども食堂「放課後れすとらん」を年間で4回開催し、多くの子どもたちに参加していただきました。協力団体の岩見沢ロータリークラブ様より食堂で使用する食器一式を寄贈していただき、後日理事長より感謝状と記念品を贈りました。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。

評議員会は定時評議員会のみ1回の開催でした。事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算等が行なわれました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き理事会で報告をしていただいております。

法人経営と会計については、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しています。法人改革の重点項目である財務規律の強化の面で、社会福祉充実残額の 適切な計算と、法人の財産を地域社会に役立てる方策なども検討をしています。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
	口时/云场	主な内谷	理事	監事
第1回理事会		・平成30年度事業報告の承認・平成30年度決算の承認・次期理事の候補者の選定・次期監事の候補者の選定	6	2
第2回理事会	令和1年6月15日(土) 16時00分~17時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室		6	2
第3回 理事会	令和1年9月26日(木) 14時00分〜15時30分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室		6	2
第4回理事会	令和1年12月21日(土) 15時00分~17時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	・補正予算の承認 ・振興局庁舎の改修工事に伴う「そらかぜ食堂」 休止の取扱いについて	6	2
第5回 (緊急) 理事会	令和2年2月21日(木) 17時00分~18時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室		6	2
第6回理事会	令和2年3月13日(土) 15時00分〜17時00分 社会福祉法人空知の風 ぱん工房春いろ・カフェ	・令和2年度事業計画の承認	6	2

○評議員会の開催状況について

			出席状況		況
	日時/会場	主な内容	評議員	理事	監事
定時	令和1年6月15日(土) 14時00分〜16時00分 社会福祉法人空知の風 本部2階多目的室	・福祉充実残額の計算の承認	6	4	2

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当	監事
	口44	> 1 3 (光 刊 H J	業務	会計
平成30年度第4期	令和1年5月28日(火)	平成31年1月1日から平成31年3月31日		小嶋
179.30千皮新4朔	14時00分~17時00分		監事	監事
平成30年度決算	令和1年5月28日(火)	平成30年4月1日から平成31年3月31日	堀	小嶋
十成30千反次异	14時00分~17時00分	十成30年4月1日から十成31年3月31日		監事
令和1年度第1期	令和1年8月20日(火)	平成31年4月1日から令和1年6月30日	堀	小嶋
17個1千/支券1朔	14時00分~17時30分	一成31年4月1日から日和1年0月30日	監事	監事
令和1年度第2期	令和1年11月27日(水)	令和1年7月1日から令和1年9月30日	堀	小嶋
17個1千/支統2朔	14時00分~17時00分	予州1十7月1日かり予州1十9月30日		監事
令和1年度第3期	令和2年2月14日(水)	令和1年10月1日から令和1年12月31日		小嶋
7年1十反第3期	14時00分~17時00分	^{つ /} 1 + 10 / 1 1 / 1 / 9 つ / 1 1 + 12 / 1 3 0	監事	監事

○外部監査の実施状況について(よつば会計事務所)

	日時	対象期間	内容
第1回	平成31年4月19日(金)	平成31年1月1日から平成31年3月31日	30年度決算書
- 第1凹	10時00分~20時00分	一次31年1月1日から十成31年3月31日	および明細書確認
第2回	令和1年5月18日(土)	平成30年4月1日から平成31年3月31日	30年度決算書
新 乙巴	10時00分~19時30分	一次30年4月1日かり十次31年3月31日	および明細書確認
第3回	令和1年7月25日(木)	平成31年4月1日から令和1年6月30日	各科目残高確認
毎3回	10時00分~18時40分	一次31年4月1日から7和1年0月30日	収支状況の確認
第4回	令和1年10月30日(水)	令和1年7月1日から令和1年9月30日	各科目残高確認
554四	10時00分~19時00分	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	収支状況の確認
第5回	令和2年2月13日(水)	令和1年10月1日から令和1年12月31日	各科目残高確認
20四	10時00分~19時30分	つが11410月1日かりつ和1412月31日	収支状況の確認

○苦情解決委員会の開催状況について

				出席状況		
				受	第	
	日時/会場	主な内容	管	付	3	
	口刊/五物	工なり合		担	者	
				当	委	
				者	員	
	令和1年5月7日(火)	・30年度各事業所ごとの苦情受付状況報告				
平成30年度	17時00分~19時00分	・第三者委員からの意見	2	7	3	
総括	社会福祉法人空知の風			1	3	
	本部1階会議室	・権利擁護、虐待防止に向けて				

■役員の改選の状況について

令和1年度の定時評議員会終結をもって任期満了となった理事および監事の改選については、法令に則り次のように選任しました。

氏名		職業	区分別該当状況	任期
橘 文世	2 理事長	社福)栗山ゆりの会 常務理事 総合施設長	社会福祉事業の経営に 識見を有する者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
橘正樹	対常務理事	社福)空知の風 常務理事 総合施設長	施設の管理者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
松田 愁言] 理事	社福)空知の風 法人事務局長 歩~夢施設長	施設の管理者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
横田雅龙	2 理事	社福)空知の風 きっちんどう施設長 わくわくどう施設長	施設の管理者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
神田薫朋	理事	有)北海道損害保険事務所 代表取締役	法人が行う事業の区域における福祉に 関する実情に通じている者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
西園 真樹	村 理事	有)北海道クリーンアクト 代表取締役	法人が行う事業の区域における福祉に 関する実情に通じている者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
堀利幸	監事	岩見沢市障害福祉施策 推進懇話会 委員長	社会福祉事業について 識見を有する者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時
小嶋 孝龙	2 監事	有限会社オアシス 代表取締役 施設長	財務管理について識見を有する者	再任 令和3年度定時評議 員会終結時

■施設整備等について

主な施設・事業所の整備としましては、送迎や製品の配達、通院などに使用する利用者 支援用の車両と、運搬や作業に使用する貨物の車両を購入しました。

機器整備としては、「たのしいどう」で使用していたリースのコピー機が経年による劣化があったため、機械の更新をリースで行なっています。

◇車両の入れ替え整備

①きっちんどう 送迎用・製品配達用車両

購入車種:トヨタノア シルバー

8 人乗り 4 WD

年式 : 平成22年

購入価格:915,000円

②歩~夢 通院・巡回用車両

購入車種:トヨタシエンタ ライトブルー

7 人乗り 4 WD

年式 : 平成23年

購入価格:850,000円

③たのしいどう 作業・運搬用車両

購入車種:トヨタハイエース ガンメタ

5 人乗り 4 WD

年式 : 平成23年

購入価格:900,000円







◇機器整備

①「たのしいどう」コピー機の整備(リース契約)

リース物件: XEROX複合機 (DocuCentre VI C4473PFS)

リース月額: 16,000円/月額(5年リース)

リース総額:990,000円(税込み)



- ■事故報告の状況について
 - □利用者さんに係る事故
 - ①支援時間中の重大な負傷等

0件

②利用者さん同士のトラブルによる負傷

1件

□車両による事故件数

①人身事故

1件

②単独接触事故

5件(雪壁への接触、施設・建物への接触等、けが人なし)

③他の車との接触事故 2件(駐車車両への接触等、けが人なし)

■新型コロナウイルス感染症に対する予防や対策等について

2020年1月頃から中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは2月頃より世界的な 感染の広がりとなりました。当法人では2月中旬頃より利用者家族向けにプリントを作 成し、感染予防のための注意喚起を行ない、手洗いと消毒、建物や備品の消毒も行なっ ています。来訪者へは館内の立ち入りをお断りし、玄関先での応対にするなどの対策を 行なっています。グループホームで生活している方については外出や帰省を原則禁止と して対応を行なっています。

> 事務運絡 令和2單2月25日

利用者の皆様 ご家族の皆様

社会福祉法人 空気の質 総合施設 (公印省略)

新塑与合手子ややえ酸薬学院対策について

全類の質ではいままでも衝突症の学院のためにつかいや手洗いなどに取り組んできました。それに記え新聞ららようさルネッやグラルネッチの極楽拡大についても学院を衝眩していくために、皆様にもご解解、ご覧がたもいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

- 1. 毎日朝晩に保護を開り、発験などの風兼の「症"状が見られる場合には通所利用をお採みして、健康観察をするなどの対策をお願いいたします。
- 2. 選訴の際にはできる疑りやえうを誓用するようにお願いします。独にじて行や代え、選挙値などで、疑い逆輸で極の父と近い整幢になってしまう芳は狂激が影響です。
- 3. 装舗館、ランサート、ドベットなどが多く筆まる場所へ出かけるのはできるだけ養けるようにお願いします。ご家族からもご挙入へ働きかけるお願いします。
- 4. 通所利用学に乗編など風事の能学を発症した芳についてはご製蔵に連絡をし、帰宅をお願いいたします。 グルークネームの芳はグルークネームへお踊りいただきます。

そのほか、値で宗す首後「37.5億の発験が『台間以上級く」「つよいだるさ」「護譜しさ」に当てはまる芳は、複雑所に輸送で箱酸し、対節の指示に「従ってください。

また、支援えタップについても上記問権の対策とし、龍内の消費などにも取り組んでおります。 普種のご難解とご話がをお願いいたします。



■行事の実施状況について(各施設・事業所合同)

日時	行 事 名
平成 31 年 4月 6 日	事業開始式
令和 1 年 6月30日	第8回地域交流祭※法人行事
令和 1 年 9月14日	第8回レクリエーション大会
令和 1 年 11 月 1 日~2 日	利用者研修旅行1班(登別方面)
令和 1 年 11 月 8 日~9 日	利用者温泉旅行2班(富良野方面)
令和 1 年 12 月 21 日	法人忘年会※法人行事
令和 1 年 12 月 28 日	利用者大忘年会
令和 2 年 1月17日	新成人のお祝い会



レクリエーション大会









■渉外活動(令和1年度)

涉外活動	職名	氏 名	
	理事	橘	
空知知的しょうがい福祉協会	代表者	TD 竹治・KD 林・AD 橘	
全和和的しよ)が 竹田和 勝云	1人及有	WD 横田・HM 松田	
	幹事	中山・成田	
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会	委員	橘	
・岩見沢市障がい者サポート協議会	安貝	竹	
全国社会就労センター協議会	委員	横田	
事業振興委員会	安 貝	1英口	
北海道社会就労センター協議会	委員	横田	
事業振興委員会	安貝	1英口	
北海道知的障がい福祉協会	委員	松田	
運営研究委員会	女 貝	松田	

■地域公益活動報告

□子ども食堂「放課後れすとらん」

法人の地域公益的活動の一環として、岩見沢ロータリークラブ及び青少年育成事業 (インターアクトクラブ=緑陵高校ボランティア部)の協力を得ながら、子ども食堂「放課後れすとらん」を4回開催しました。利用者さんにも調理や配膳、レクなどに協力していただき、多くの参加者に利用していただきました。地域との交流や人材育成などの意義も感じられ、次年度以降についても継続をしていく予定です。

また、岩見沢ロータリークラブ様から食器60セットをご寄贈いただきました。

メニュー

時期	食事メニュー	お楽しみ	時期	食事メニュー	お楽しみ
春	カレーライス	餅つき	秋	豚汁、炊込みご飯	米ドン
夏	ロコモコ丼	かき氷	冬	2種のグラタン	ミニパフェ

開催の様子

第1回放課後れすとらん(5月21日火曜日)16:00~19:00







参加者内訳 子ども 27名(幼児5名 小学生19名 中学生3名)

全54名 保護者 10名

運営スタッフ 1 7 名 (職員 5 名 利用者 3 名 緑陵高校ボランティア 5 名 ロータリークラブ 4 名)

第2回放課後れすとらん(8月27日火曜日)16:00~19:00







参加者内訳 子ども 29名(幼児9名 小学生20名)

全 6 9 名 保護者 1 4 名

運営スタッフ 2 6 名 (職員 9 名 利用者 3 名 緑陵高校ボランティア 10 名 ロータリークラブ 4 名)

第3回放課後れすとらん(11月12日火曜日)16:00~19:00







参加者内訳 子ども 39名(幼児10名 小学生29名)

全 7 7 名 保護者 1 8 名

運営スタッフ20名(職員9名 利用者3名 緑陵高校ボランティア6名 ロータリークラブ2名)

第4回放課後れすとらん(令和2年2月4日火曜日)16:00~19:00







参加者内訳 子ども 49名(幼児14名 小学生34名 中学生1名)

全 9 3 名 保護者 2 4 名

運営スタッフ20名(職員7名 利用者3名 緑陵高校ボランティア7名 ロータリークラブ2名 その他ボランティア1名)







岩見沢ロータリークラブ様から食器 6 0 セットを寄贈され、橘理事長より感謝状と記念品を お渡ししました。

後 援:岩見沢市・岩見沢市教育委員会・岩見沢ロータリークラブ・レストランコロナ

■各部門報告

□内需拡大部門について

日本全国の障がい者施設のネットワークでお互いに製品を流通させることで、販路や販売数が拡大して売り上げの向上につながる取り組みを「内需」と表現して取り組みを行なっています。

□企業就労支援

一般企業に雇用されている利用者さんについても、グループホームのスタッフが中心となり、企業へ訪問して近況を確認したり、本人から聞き取りを行なったりしています。労働関係の制度なども変化していきますので、情報共有なども合わせて行なっています。

□給食提供部門

日中の事業所とグループホームの献立担当者が定期的に会議を行ない、メニューの情報共 有や仕入れの調整を行ないました。また、内需拡大部門から情報を得て、他の法人事業所 の食品をメニューに取り入れ、お楽しみメニューとして提供しました。

□医務部門

利用者の健康状態や服薬状況を把握し、食事ごとの服薬がある方への支援を行なっています。また、毎週体重測定を実施し健康状態の把握に努めています。年1回健康診断では総合的な健康状態を調べています。職員についても健康診断を年1回実施(夜勤対象者は年2回)しています。40歳以上の常勤職員については人間ドックの受診を推奨しています。

■苦情解決委員会および虐待防止委員会について

令和1年度の苦情件数1件 要望件数2件 その他日常に生じる相談多数 各事業所の苦情担当者(山本・廣岡拓・成田・横塚・中山・倉増) 各事業所の苦情解決責任者(橘・松田・横田) 第三者委員(小松委員・小嶋委員・藤田委員)

令和1年度の第三者委員も交えた年度の総括会議については、新型コロナウイルスの 感染拡大を防止する観点から、集合しての会議を行なわずに書面による会議といたしま した。

委員会の活動としては、今年度13回の担当者会議を開催し、苦情受付箱に投函がなくても日々のかかわりの中で気になる事や対応等に疑問に思うことなどを話し合ってきました。

内容としては、感情表現が難しく、暴言や暴力を行なってしまう利用者さんに対する 対応や、学校を卒業してから社会に向けた環境の変化に対応できずに人間関係に悩んで 自傷行為をしてしまった方への対応、また、スタッフのかかわり方に関する要望などが 見られました。その他日常で利用者さんたちが感じる疑問や将来的な希望などの相談も 寄せられております。年に数回「相談カード」の使い方については、利用者さん向け説 明の時間をいただいていますが、令和1年度はカードの投函は無くほとんどが直接口頭 による相談や日々の様子から話し合いになったケース対応が多く感じられました。

また、虐待防止や人権侵害の観点からは支援スタッフと利用者さんとの関係に親しみが出てくる事で、一定の距離が保てなくなる様子が見受けられ支援中の声がけ等について、毎月担当者から職員に対し声がけや全体的な周知に努めています。

■役員・職員 研修参加について

□法人研修会(令和1年9月26日(木) 15時30分~17時00分) 演題「消費増税と事業者の対応について」 講師 岡田 光次郎氏(株式会社 よつば会計事務所)

毎年恒例の役員及び職員研修会は消費税増税に向けた学習を行ないました。利用者支援の 就労活動や、福祉施設としての様々な取引に関連があるため、多くの参加者にとって大変勉 強になる内容でした。





□外部研修の参加状況

職員 研修参加一覧

日時	研修名	主催	場所	参加。	人数
5/22~23	道福協 全道施設長セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3	名
5/8	空福協 幹事会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	2	名
5/27	施設職員スキルアップ講座	北海道社会福祉協議会	札幌市	1	名
7/22	食品衛生責任者実務講習会	岩見沢地域職員衛生協会	岩見沢市	1	名
6/19~20	北海道社会就労センター施設長・職員研修会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2	名
7/4~5	全国社会就労センター総合研究大会	全国社会就労センター協議会	徳島県	2	名
7/22~23	全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	神奈川県	1	名
8/1	権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2	名
7/30	消費税改正対策セミナー	北海道社会就労センター協議会 北海道知的障害福祉協会	札幌市	4	名
8/22	空知知的しょうがい福祉協会・栄養士・調理員従事者研修会	空知知的しょうがい福祉協会	雨竜町	1	名
8/6	社会福祉法人のための消費税改正対策セミナー	北海道社会福祉協議会	札幌市	1	名
8/28~29	食を通じて新しいビジネスネットワークを考える実践研修会	食ものネットワーク事務局	大分県	3	名
9/5~6	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	宮城県知的障害者福祉協会	宮城県	1	名
9/11	全道グループホーム等スタッフ研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2	名
9/12	南空知圈域感染症予防研修会	北海道岩見沢保健所	岩見沢市	1	名
10/22~24	全国知的障害福祉関係職員研究大会	日本知的障害者福祉協会	鹿児島県	5	名
10/24~25	授産自主研修会	社会福祉法人敬和会	鹿児島県	3	名
10/15~16	相談支援従事者研修	北海道地域 ケアマネージメントワーク	札幌市	2	名
9/27	災害対策研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1	名
11/1	加齢化支援研修	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1	名
10/8~9	全道知的障がい関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2	名
12/6	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	北海道保健福祉部福祉局障がい者 保健福祉制度グループ	札幌市	2	名
12/17~18	利用者工賃向上と就労支援を考える 研修会	北海道社会就労センター協議会	新冠町	3	名
11/22	社会福祉法人向け実務実践セミナー	よつば社会保険労務士事務所	美唄市	1	名
11/18	北海道民間社会福祉事業職員共済会業務説明会	北海道民間社会福祉事業職員 共済会	札幌市	2	名
11/28~29	防火管理者講習	一般社団法人日本防火·防災協会	岩見沢市	1	名
12/18~20	相談支援従事者研修	北海道地域 ケアマネージメントワーク	札幌市	1	名
11/25	令和元年度 発達支援部会職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	岩見沢市	2	名
12/22	介護に関心のある方のための入門的研修	北海道保健福祉部福祉局地域 福祉課	岩見沢市	2	名
1/30	社会福祉法人会計実務者決算·財務分析講座	北海道社会福祉協議会	札幌市	1	名
1/15~16	幹部職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2	名
1/27	北海道サービス管理責任者研修	特定非営利法人 きなはれ	札幌市	1	名
2/17~18	全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3	名
2/21	しょうがい者就労支援セミナー	就業・生活支援センター「ひびき」	岩見沢市	1	名
2/27~28	サービス管理責任者基礎研修	北海道地域 ケアマネージメントワーク	札幌市	1	名

※研修参加回数

35 回

※役員・職員参加人数 64名(延べ人数)

■利用者現況調べ(令和2年3月31日現在)

① 年齢構成(単位:人)

	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~	合計人数
男性	3	26	16	9	2	2	0	58
女性	3	13	8	9	1	0	0	34
総数	6	39	24	18	3	2	0	92

平均年齢: 男性 32.8歳、女性 32.6歳、全体 32.7歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	18	1	6	17	12	4	0	3. 30
女性	5	0	2	10	9	5	3	3. 90
総数	23	1	8	27	21	9	3	3. 55

■工賃の支払い状況(単位:円)

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	18, 351, 722	9, 379, 300	33人	51.1%
きっちんどう	22, 593, 031	8, 471, 400	24人	37.5%
あかるいどう	7, 112, 745	5, 211, 900	21人	73.3%
わくわくどう	13, 039, 770	5, 991, 400	14人	45.9%
全事業合計	61, 097, 268	29, 054, 000	92人	47.6%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	支給人数	平均工賃額	うちB型のベ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	9, 379, 300	33人	23, 685	216人	27, 932
きっちんどう	8, 471, 400	24人	31, 375	210人	32, 979
あかるいどう	5, 211, 900	21人	20, 410	132人	27, 250
わくわくどう	5, 991, 400	14人	35, 663	168人	35, 663
全事業合計	29, 054, 000	92人	27, 783	726人	31, 057

令和1年度 たのしいどう 事業報告

1. 令和1年度事業の総括

令和1年度は、高等養護卒業後の新利用者さんが4名加わり、新たな作業班として一新し、活動へと取り組んでいます。生産活動の面においては、10月からの増税に伴う商品価格の改定、軽減税率対応の請求書や価格の表示方法の見直し、キャッシュレス対応の手続き等、様々な準備に時間を要してきました。レジ操作にも慣れるまでの期間は、戸惑いの多い日々となりましたが、利用者さんと職員で協力し、乗り越える事が出来ています。1年通して一つずつ丁寧に、手作りで仕上げているしめ飾り製作では、今年度も目標数を上回る注文を頂き、大きな成果となっています。利用者さんのクオリティーも年々高くなり、完成品が増えていくことで、チームとして皆で協力して作り上げた事への達成感にも繋げることが出来ています。多様な利用者さんのニーズや特性に合った作業種の確保には、試行錯誤の日々ではありますが、ウエスの製造や杖の組み立て作業、玉ねぎの梱包作業等、作業の難易度も幅広く、多くの利用者さんが役割を担える作業のきっかけ作りにも繋がったと感じています。やり甲斐や楽しみを創出する活動も大切にし、仕組み作りを進め、少しずつ利益にも繋げることが出来た一年となりました。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員25名 現員19名

■ 生活介護事業 定員15名 現員15名

■ 短期入所事業 定員 2名/日

3. 令和元年度の利用状況

■たのしいどう全体(定員40名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	33	33	33	34	34	33	33	32	32	32	32	34	34	
開所 日数	25	24	25	26	25	24	25	24	24	23	23	25	293	68.5%
延利用 回数	681	689	684	736	662	636	705	648	665	627	606	693	8,032	

平均実利用数27.4名(小数点第2位以下切り上げ)

4月より、4名の高等養護卒業後新利用者さんが加わり、年度途中に2名の利用者さんが新たに利用開始しています。また、年度内に2名の方が退所されています。現員数が、定員数を満たしていないため、利用率は低くなっています。

■就労継続支援事業 B型(定員25名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	19	19	18	18	17	17	17	17	18	19	
開所 日数	25	24	25	26	25	24	25	24	24	23	23	25	293	59.6%
延利用 回数	376	376	375	419	362	348	386	346	346	330	327	373	4,364	

平均実利用数 14.9名(小数点第2位以下切り上げ)

4月4名、7月1名、3月1名新規利用者さんが、新たに利用開始しています。9月1 名、3月1名の利用者さんが、退所しています。

■生活介護事業(定員15名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	16	
開所 日数	25	24	25	26	25	23	25	24	24	23	23	25	292	84.0%
延利用 回数	305	313	309	317	300	288	319	302	319	297	279	320	3,668	

平均実利用数 12.6名(小数点第2位以下切り上げ)

3月に1名の新規利用者さんが、新たに利用開始しました。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用 回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

- □事業所内での生産活動(取り組みの詳細は就労事業報告参照)
 - ・パンと菓子の製造販売

~全国の事業所様との取引を継続的に進め、パンやロールケーキ、焼き菓子の納品、 発送を行なっています。受注先の個々のニーズにも極力対応を試み、様々な商品の 試作を繰り返し行なう中で、顧客や販売先を継続させる事が出来ています。季節や イベント先に合わせた商品作りも進め、活動に積極的に参加し、営業や販売に取り 組み、売り上げへと繋げています。

・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業

~季節に応じた旬の食材を使用し、彩りある、栄養バランスを考えたメニュー作りに努めています。全国の事業所様との内需取引を継続的に進め、野菜、お肉、発酵食品、麺類など、様々な商品を献立へと取り入れています。全国のご当地メニュー等を昼食提供へ組み込み、また、月数回の「お楽しみ選択メニュー」も利用者さんから好評を頂き、企画を継続して行なっています。食への興味や、季節感が感じられるメニューを提供することで、食事の楽しみや生きる源としての「食」を大切にし、取り組みを進めています。

紙工芸品と受注作業

~しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、一年を通してパーツ作りに取り組み、完成度をより高める事が出来ています。今年度も全国より沢山の注文も頂き、利用者さん一人ひとりの活動意欲ともなり、売り上げへと繋げる事が出来ました。受注業務では、杖の組み立て業務の作業をはじめとした様々な作業に取り組んでいます。ウエス製造では、少しずつ顧客も出来始め、注文も増えてきています。工程を細分化しながら、皆で協力し、製造へと取り組みを進めています。

□やりがいや楽しさを創出する活動

・作業活動のほか、ダンス活動や体操、音楽、様々な余暇支援を通して、息抜きと通 所する楽しみを大切にしています。曜日毎に、作業と活動の時間を区切り、活動を 通して、様々な事へと興味をもち、やりがいや達成感への創出に繋がるよう、 取り組みを進めています。

■権利擁護

利用者さんの障がい特性や年齢も様々であり、利用者さん同士の人間関係など、日々の細かな対応が求められる中では、スタッフ朝会、終礼時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することや情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。相談受付箱に投函された苦情や要望はありませんでしたが、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設けています。少しでも、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通いやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。救助者の搬出も想定した、人形を使った避難訓練や、 地震や火災を想定した訓練も実施しています。複数の出入り口があるため、火災の発 生場所によって人の動きも異なることから、避難経路や避難口の判断、地震発生時の 避難判断の優先順位など、常に動きを想定、イメージしてことの大切さを学ぶ機会と なり、活きた訓練となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・事業所会議・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をも とに支援内容等について検討しました。利用者さんにわか り易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケ ー ス 会 議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて 事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・各 担 当 者 会 議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡 大、そらかぜ食堂の運営、企業就労者支援、利用者昼食提 供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、 諸会議を月1回実施しています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	19	18	18	19	19	18
総支給額	368,200	345,500	400,900	395,500	384,600	414,800
平均額	19,379	19,194	22,272	20,816	20,242	23,044

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	18	18	17	17	17	216
総支給額	392,900	388,600	729,100	354,500	391,000	1,467,800	6,033,400
平均額	21,828	21,589	40,506	20,853	23,000	86,341	27,932

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	15	15	15	15	15	15
総支給額	194,500	171,500	221,100	201,300	196,600	218,600
平均額	12,967	11,433	14,740	13,420	13,107	14,573

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	15	15	15	15	15	180
総支給額	202,100	216,700	522,700	196,800	223,800	780,200	3,345,900
平均額	13,473	14,447	34,847	13,120	14,920	52,013	18,588

□事業所全体の平均工賃額 ¥23,685/月(33名)

5. 課題

生産活動の積み重ねた成果が、利用者さんにお支払いする工賃として、毎年少しずつ増額することができています。しかし、消費税増税に伴う対応や、食品衛生法の改正による食品表示や栄養成分表示の義務化等に伴う業務が増え、新規顧客の開拓へと動きが取れていない状況が続いています。また、衛生管理体制の強化や見直しにも時間を要しており、生産活動の成果が効率的に利益に繋がるよう、今行なっている役務や作っている製品がそれに見合うのかどうかの検証や見直しは、今後も必要と感じています。利用者さんが安心して、毎日作業や活動に通所出来、工賃に繋がる遣り甲斐を感じ、通う事への楽しみや自分の居場所として受け入れられるような環境作りを大切に考えていきたいと思います。今後の目標として、一人ずつの支援の視点を見直ししていけたらと考えています。

就労事業の報告

■事業班名:レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

「レインボー班」では、クイリング製法で作成した、しめ飾りや季節毎のオリジナル製品、ウエス製造に取組み、「クリアー班」では、企業から受注を受けた様々な期間限定の下請作業へと取組んでいます。

レインボー班のしめ飾り作りでは、毎年購入をして頂いているお客様に満足して頂ける様、一つひとつ丁寧に、1年間通して作成を続けています。ウエスも、少しずつではありますが注文が増え、顧客の方から、新規のお客様を紹介して頂けるようになりました。

下請けの「クリアー班」では、今年度も杖の組み立て作業に取り組み、具材の検品や傷の確認等、一本ずつ丁寧に仕上げました。公園清掃では、空知の風のロゴ入りジャンパーを作成し、利用者さんと職員が着用しながら、4つの地域の公園清掃へと取り組みました。また、道外へと発送する、玉ねぎの梱包下請け作業では、重たく、重労働の工程もありますが、北海道の美味しい玉ねぎが地方に送られる作業を担っていると嬉しく感じながら進めています。HDDの分解作業では、工具を使用するため、怪我をしないよう、職員の見本を確認しながら、納期へ向けて黙々と進めています。







2. 成果

昨年に引き続き、企業からの請け負う仕事が増え、利用者さん達の遣り甲斐へと繋がっています。クイリング製法での製品作りを得意とする方、工具を使用し、細かな分解や組立て作業を得意とする方、布を裁断し、ウエスを作る事が得意とする方等、一人ずつが自分の得意とする事や、やりたい工程や作業へと意欲が湧き、仕事に取り組む事が出来ていたと感じています。

3. 課題

自分の仕事として、利用者さんが自信を持ち、企業や顧客が不利益にならない様な、事業を進めることが、大事だと感じています。しかし、利用者一人ひとりの持つ力の向き不向きや、個々の特性が異なるため、効率的に作業を進めていくには、利用者さんの意欲を無くさず、一人ずつの力を最大限に引き出せる作業への声掛けや誘導も、必要だと感じています。

■事業班名:ぱん工房春いろ

1. 取組みの概要

売上増に向けた商品開発へと力を入れ、生食パンやホテルバターパン、クッキー、ロールケーキ等の新商品を販売しています。また、岩見沢市観光協会から、「カレーパンを名物に岩見沢市を盛り上げよう」との企画に賛同し、健康志向を考えた、大豆ミートを使用したカレーパンも販売しています。また、9月に仙台で行なわれた「全国物産展」では、北海道名物として、メロンクリームを入れた「北海道めろんロールケーキ」と、練乳クリームを入れた「北海道みるくロールケーキ」を販売しています。12月に札幌駅地下歩行空間で行なわれた、「福祉の市」にも、今年度も参加しています。クリスマス商品として、シュトーレンやガトーショコラ、クッキー、チョコラスク等を販売しました。クリスマス時期には、各事業所からクリスマスケーキや焼菓子セット、ロールケーキ等の受注を頂き、ギフト用として、箱詰めやラッピングを行ない、道内、道外の他各事業所へと納品、発送しています。10月より、軽減税率が執行され、キャッシュレス化も進めています。また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理や記録の保管も進め、4月に向けて、食品表示と栄養成分表についてのラベル変更にも取り組みました。







2. 成果

春いろイチオシの商品である、道産キタノカオリ小麦を使用した食パンや、生食パンを販売先に持って行くことで、一度食べて頂いたお客様からは、とても好評を頂いています。店舗でも、食パンをまとめ買いして頂けるリピーター様も増え、売上も伸びて来ています。販売会では、ラスクやクッキーの焼菓子、チーズケーキやロールケーキ等のケーキ類も多く持っていくことで、パン以外の春いろ商品の魅力を伝え、売上を積み上げることが出来るようになってきました。新規の販売先が増えたことで、イベント注文を受ける事があり、売上にも繋がっています。

3. 課題

食品表示法や HACCP 義務化に向けて、法律を正しく理解していくこと、キャッシュレス化が進む中、誰でもスムーズにレジ操作を行なえるような対応が必要だと感じています。1つの製品として、春いろの商品が安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが、今後とても大切だと感じています。原材料の高騰は、今後も進んでいく事が想定されますので、より付加価値の高い製品の開発や価格の見直しを行ない、現在注文を頂いている納品先を大切に、より多くの顧客を開拓し、売り上げ増を目指し、工賃還元へと努力していきたいと思います。

■事業班名: さんくっく

1. 取組みの概要

さんくっくでは、たのしいどうに通所されている方の昼食製造作業の他に、グループホームの夕食製造作業を行なっています。昼食製造では、季節を意識した食材を使用し、月毎のイベントに合わせたメニュー作りへと工夫する事で、利用者さんに毎日食事を楽しんで頂ける様な、献立立案を目指しています。グループホームの夕食製造では、食材や作った料理を食数に合わせて分け、同じ量が分配されるように計量し、確認しながら進めています。また、衛生管理に気を付け、安心して食べて頂けるように、利用者さんと一緒に取り組んでいます。







仲間の事業所の製品を食材として取り入れた献立メニュー、「ガパオライス」と「夏野菜そうめん」

2. 成果

昼食製造では、昨年度に引き続き、他事業所の全国の製品を使った献立を積極的に 取り入れています。月数回のお楽しみメニューでは、平日ではなかなか作れない料理 を、土曜日の昼食へと取り入れることが出来ました。

グループホームの夕食製造では、以前まで多かった、配食数の間違いや、食材を入れるコンテナの間違いを減らすため、検品作業を見直し、皆で協力することで、改善する事が出来ています。

また、年明けから HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の記録を付け、保管しています。記録を残すことで、より衛生管理への意識が高くなっています。

3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は、今後もその都度改善方法を考えていく必要があると感じています。班としての協力体制、役割の明確化を重点に、環境の整備にも取り組み、一人ずつが調理のスキルを向上していける様な、支援も積み重ねていきたいと考えています。

■データ(たのしいどう)

- 1. 製造販売事業 売上1,724万円 工賃還元額 851万円
- 2. 下請加工事業 売上 111万円 工賃還元額 87万円

令和1年度 きっちんどう 事業報告

1. 令和1年度事業の総括

今年度は元号も新たに「令和」となり、きっちんどうとしても新しい時代へと挑戦する年となりました。福祉事業所として、大きな事故・怪我はありませんでした。しかし、利用者さんの支援の中で、入院や利用することが難しい状態になってしまうケースなどこれまでに経験したことがない支援と向き合った1年でもありました。

就労事業では、ここ数年、大口で注文をいただいていた建設業者からのお弁当が工期終了を迎えたことを機に岩見沢市内のみの配達エリアに整理を行ないました。生産活動は大事な活動ではありますが、利用者支援をしっかり行なえてこその生産活動ですので、この二つの活動・支援のバランスを取れるように調整をした年ともなりました。

年度末には新型コロナウイルスへの対応を進めながらの支援となっています。利用者 さんが安全に安心して利用してもらえる場として、事業所の継続を進めていくこととな り、これまで不自由なく調達できていたマスク・消毒の確保も困難になり、法人全体で 協力しながら対応を行なう年度末となりました。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員14名 現員19名

■ 生活介護事業 定員 6名 現員 5名

3. 令和1年度の利用状況

■きっちんどう全体(定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	22	21	22	22	23	23	23	23	23	23	22	22	24	
開所 日数	26	24	25	27	25	23	25	24	24	23	23	25	294	91.7%
延利用 回数	448	437	447	446	444	443	481	470	459	448	413	457	5,393	

平均実利用数 18.4名(小数点第2位以下切り上げ)

30年度から入院していた方や利用が難しくなってしまった方が再利用をされています。年度末には、別の方が入院され利用減となっています。

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	17	16	17	17	18	18	18	18	18	18	17	17	19	
開所 日数	26	24	25	27	25	23	25	24	24	23	23	25	294	100.2%
延利用 回数	338	327	342	335	340	351	373	366	351	345	313	345	4126	

平均利用数 14.1名(少数点第2位以下切り上げ)

生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
開所 日数	25	24	25	26	25	23	25	24	24	23	23	25	292	86.8%
延利用 回数	110	110	105	111	104	92	108	104	108	103	100	112	1267	

平均利用数 4.4名(少数点第2位以下切り上げ)

30年度と利用率を比較すると、B型は-1.9%。生活介護は-0.1%の減。

4. 取り組みの概要

令和1年度のきっちんどうは、平成30年度の成果に続き、順調な弁当製造を進める

ことができました。

衛生管理の面では、昨年より進めていた HACCP に準ずる対応への取り組みを引き続き進めました。

必要事項の記録を更に整理して作業日誌に盛り込み、 一般飲食店における「衛生管理計画」を作成し重要 管理ポイントやチェック方法を明確に表しました。

利用者さんも役割としても行なえる部分は担ってもらい、衛生面について意識を高く持てるようになってきています。利用者さんスタッフと一緒になって、お客様へ安心安全に食べていただける弁当製造に取り組むことができた1年となりました。



新しく作成した「衛生管理計画」

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも併せて実施。年度途中にも法人内研修や職員会議など「権利擁護」については、様々な視点から権利擁護について取り上げています。

従業員の中でも割合を多く締めてきているパート職員にも権利擁護について、周知を 行ない情報の共有を進めました。特に新しいパート職員に対しては知的に障がいのあ る方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については繰り返し伝 えています。

■苦情解決

苦情受付については、令和1年度0件となっています。

しかし、昨年度に発生した利用者さん同士の金銭トラブルが原因で1名の利用者さんが通所できない状況がありました。本人の不安や意向など話を聞き取りながら今後の通所についての話合いを行ない利用再開に繋げることが出来ています。

利用者さん同士の行動に目を配り、トラブルが起きないよう日々の表情や様子等の変化に気づけるような関わりを持ち、職員間で連携して気付いた情報を共有していくことにも努め利用者さんの心身の状態把握を行なうようにいたしました。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を 実施致しました。体調不良者は、厨房に入らない(持ち込まない)を徹底し、利用者 さんの体調管理と共に衛生面の確保に配慮しました。

年度末にかけては、新型コロナウイルスの対策を重点的に行ないました。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。地震や火災を想定した訓練を実施しています。複数の出入り口があるため、火災の発生場所によって人の動きも異なることから、避難経路や避難口の判断、地震発生時の避難判断の優先順位など、常に動きを想定、イメージして大切さを学ぶ機会となり、活きた訓練となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法 人 全 体 会 議・・定例で月1回実施。
- ・事業所(班)会議・・月一度の全体会議の他に、全体会議であがった案件や事業 所の議案など、必要に応じて実施いたしました。

- ・個別支援計画策定会議・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別 支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討 しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタ ッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケ ー ス 会 議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施して います。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■施設整備状況

車両運搬具取得・・・車両購入(ノア)

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17	16	17	17	18	18
総支給額	515,500	503,600	519,800	520,900	513,500	531,600
平均額	30,324	31,475	30,576	30,641	28,528	29,533

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	18	18	18	18	17	210
総支給額	541,800	541,800	1,120,200	458,200	479,500	679,300	6,925,700
平均額	30,100	30,100	62,233	25,456	26,639	39,959	32,979

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	5	5	5	5	5	5
総支給額	122,100	125,100	123,200	117,300	125,100	107,100
平均額	24,420	25,020	24,640	23,460	25,020	21,420

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	5	5	5	5	5	60
総支給額	125,100	125,600	225,700	100,800	102,800	145,800	1,545,700
平均額	25,020	25,120	45,140	20,160	20,560	29,160	25,761

□事業所全体の平均工賃額 ¥31,375-(24名)(対30年度比 -2,968円)

5. 課題

利用者さんから「働く」という自覚や意識が高く感じられる事業所の雰囲気があります。一人ひとりが役割を持って取り組むことで「やりがい」や自分の場所として生き生きと活動をした結果、工賃を得る喜びを感じている方も増えているように思います。

作業面においては、利用者さんが分かりやすく取り組みやすい環境づくりに対する支援力や技術力の不足から、職員も工夫しながらスキルアップできるために限られた時間内での製造量と利用者さんの作業確保のバランス調整に反省が残ります。

今年度、支払った工賃は前年比より下がっています。製造できる量には限界があり、これ以上の増産は厳しくなっています。今後は、利用者さん一人ひとりが役割を担い安定して通うことのできる事業所としての「継続力」が必要であると痛感しております。福祉事業としても就労事業としても、無事故で安心して利用していただけるような事業所でありたいと感じています。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎり・お弁当の製造販売、利用 者昼食提供に取り組みました。

おにぎり製造では、新商品開発として、全国生産活動・就労 支援部会職員研修会で一緒に販売を行なった事業所の商品を 材料として使い、新たな肉巻きおにぎりに取り組みました。

お弁当製造でも、全国の福祉事業所の商品を取り入れ、いつでも注文を受けられる定番弁当や新しいメニューとして製造販売を行ないました。近隣の福祉事業所や企業、学校、行政機関などからも会議、研修会など予算に応じたお弁当注文を頂きました。

また、消費税増税の対応では価格の見直しを行ない一部 商品は価格変更、キャッシュレス対応の増税対策や食品 表示法改正に向けておにぎり、お弁当の栄養成分の計算と 表示作成の準備にも取り組みました。



北欧のリンゴンベリーのジャムを 使用した肉巻きおにぎり



奈良県の事業所より仕入れた 「ガパオ」を使用した新メニュー

2. 成果

他事業所の商品を利用者さん昼食の食材として取り入れて 提供も行ない利用者さんも食事を楽しみにしてくれていました。高齢者施設の昼食提供では、常食やおかゆ食、禁忌食 対応や一口大カット、きざみ食など今まで同様に配慮して 提供しています。

食品製造における衛生の取り組みでは、"手洗い支援"の 完全実施と異物混入対策など利用者一人一人への支援を 実施いたしました。また出荷前の最終確認と食品表示確認も 継続して行ない衛生面への意識を高めています。



香川県事業所生産「マコモタケ」 を使用した「炊き込みご飯」

3. 課題

生産活動では、製造量と利用者支援のバランス調整を具体的に進めた1年でした。単発大量受注は売上として成果が見せられますが、日々の支援を手薄にし、本来の生産活動支援に不足を生むことになります。今年度は、休日の大量受注についてはお断りする事で平日の生産活動と利用者さん支援を重視いたしました。今後もこの製造量と利用者支援のバランス調整は課題となりますが、利用者さん1人1人の力が最大限に発揮できるよう様々な視点から環境を整えて今後の仕組み作りが必要と感じます。

■ 事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理や芽ひじき の選別作業を実施。

全国の事業所製品の仕入れ販売を店舗にて行ないま した。



選別作業を行なっている様子

2. 成果

自動販売機の売上手数料は、商品が入れ替わると一時的に売上が上がりますが、例年 に比べると毎月の収入は減少しています。

芽ひじきの選別作業は、主に生活介護の利用者さんが作業として携わる事が多く、細 かな作業なので製品として完成した量は少なく売上金額は少ないですが、1人1人根気 良く時間をかけて取り組んでいました。今年度で受けていた全ての選別を終えておりま す。

3. 課題

全国の事業所製品の販売では法人全体として取り組んでおり、イベントや販売時期も 考慮しつつ仕入れる製品の選定も必要となります。

また、芽ひじきの選別作業では進めていく工程で長時間の集中力持続が不可欠であり、 思うように収入に結びつくことが難しい状況もあります。

今年度で選別済の芽ひじきを終えたタイミングでもあり、今後の作業の検討が急務と なっています。

現在は生産活動で必要になる、お弁当用の割り箸の袋入れやチラシ折りなど収入に結 びつかない作業を行なっている現状がありますが、利用者さんの年齢や体調面も考慮し て携われる作業を創出し収入面も検討していく必要があります。

■ データ

製造販売事業 売上2,238万円 工賃還元額 :829万円

2. 下請加工事業 売上 21万円 工賃還元額 : 18万円

令和1年度 あかるいどう 事業報告

1. 令和1年度事業の総括

あかるいどうは、新しく利用者さん2名を迎えて、より多様化するニーズの活動拠点としての取り組みを進めてきました。令和1年度は、様々な作業・活動の充実を図り、よりやりがいの持てる事業を展開していくことに力を注いだ1年となりました。これまで請け負ってきたおしぼり梱包作業も、安定的な数量をこなしていくことが可能となり、利用者さんの技術力アップや働くことへの意欲の向上を促す取り組みになりました。事業の大きな柱として、昼食・惣菜の製造と企業からの下請加工の2つの事業があります。特に企業からの下請の業務は、衛生品の梱包や、高齢者施設における清掃作業、リサイクル分解作業、アクアリウム設置・管理業務などバラエティーに富んだ作業内容でしたが、利用者さんの得意分野を生かしながら取り組むことで、それぞれの業務をつつがなく進めることが出来ました。

その他では、事業所内における創作活動や清掃業務委託を通じた、日中活動支援を実施しました。創作活動においては、岩見沢市でアール・ブリュット芸術祭が開催された事で、あかるいどうの利用者さんが作者として注目を集め、岩見沢市内の各所に多くの作品が展示されました。また、新聞や機関誌に作者として取り上げられ、記事が掲載さたり、北海道芸術祭に入賞するなど、ご本人や事業所にとっても大変誇らしく、嬉しい出来事もありました。開設当初から積み重ねてきたアート活動も、新しい技法や材料を取り入れた制作に取り組んだことで、沢山の芸術的作品が生まれ、確かな評価へと繋がってきました。また、利用者さんの描いた絵が、パンフレットやポスターの表紙に選ばれる等、利用者さんの創作意欲へと繋げられる嬉しい機会を頂くこともできました。創作活動の歩みは、年月を積み重ねて確実に進化を続け、あかるいどうからの発信や評価へと結び付ける事が出来た年度となりました。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型 定員10名 現員11名生活介護事業 定員10名 現員10名

3. 令和1年度の利用状況

■あかるいどう全体(定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252	
開所 日数	25	24	25	26	25	23	25	25	24	23	23	25	293	87.3 %
延利用 回数	525	504	525	546	525	483	525	525	504	483	483	525	6,153	

平均実利用数 21名 (小数点第2位以下切り上げ)

■就労継続支援事業(定員10名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132	
開所 日数	25	24	25	26	25	23	25	25	24	23	23	25	293	94.4 %
延利用 回数	275	264	275	286	275	253	275	275	264	253	253	275	3,223	

平均実利用数 11名(小数点第2位以下切り上げ)

■生活介護事業(定員10名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120	
開所 日数	25	24	25	26	25	23	25	24	24	23	23	25	292	80.3 %
延利用 回数	171	186	185	211	198	192	216	207	205	196	186	200	2,353	

平均実利用数 10名(小数点第2位以下切り上げ)

4. 取組みの概要

日中活動の取り組みとして、製造販売事業と下請加工事業に分かれ、個々の特性や持てる力に応じた作業内容と、新たな取り組みへの支援を行なっています。

製造販売事業では、日々の昼食製造と事業所間の昼食や歩~夢の夕食・朝食の惣菜製造を行なってきました。今年度も、昼食献立メニューとして、全国や空知管内の事業所が製造、生産する商品を食材として取り入れ、内需取引を計画的に進めています。また、年度途中より惣菜の種類や納品回数を増やし、工賃向上の取り組みの一環としました。

下請加工事業では、市内の高齢者施設における清掃、おしぼり梱包作業やリサイクル

分解、アクアリウム設置・管理業務など、企業からの様々な業務委託を行なってきました。昨年度より取り組みを始めた熱帯魚アクアリウムの設置・管理業務は、企業との連携を深め、外部への営業に向けて、委託内容を整備してきました。また、これまで取り組んできた絵画レンタル業務も、引き続き、法人内の各店舗に飾る絵を、利用者さんの特技を生かした新しい技法で制作し、定期的に作品の入れ替えを行ないました。作品を観て頂いたお客様より作品への好評を頂ける機会も増え、創作意欲へと繋がっています。

5. 成果

■利用者支援について

□就労継続支援事業

就労継続支援事業では、製造販売事業と下請加工事業の取り組みの中で、個々の成長やニーズに合った作業種の提供、様々な取り組みや新たな挑戦を繰り返し行ない、一人ひとりがやりがいを感じ、より工賃向上の結果として繋げていけるような支援を行なっています。



事業所内でのおしぼり製造の様子



たのしいどうへ設置されたアクアリウム

□事業所内での生産活動(取り組みの詳細は就労事業報告参照)

日中活動の生産活動では、惣菜製造に取り組む利用者さんの技術の向上が見られ、自ら進んで調理工程を担う場面が増えてきています。一つずつの完成度も高く、利用者さんの成長も感じる事が出来ました。少ない人数の中でも、一人ずつが責任をもち、自分達の仕事に自信をもって取り組んでいる様子が、伺えるようになっています。作る事の楽しみや達成感を大切に、「食」について、今後も興味を高めていけるように、また衛生管理を徹底しながら支援を実施していきたいと考えています。

創作活動では、年々利用者さん一人ひとりの感性や技術が高まり、素晴らしい作品が 増えてきています。展示への参加を積み重ねていく中で、利用者さんの芸術作品を観て 頂き、個性や感性に気付く、発見して頂けるよう取り組みを進めてきました。その中でも、芸術性に富んだ作品が、アール・ブリュット展示会に出展され、多くの人々の目に留まる機会に恵まれるなど、一人ひとりが好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々が持った才能が素晴らしい作品となって生まれました。また、いわみざわハート&アート10周年記念誌に利用者さんの作品が多数掲載される等、沢山の評価ややり甲斐に繋がる活動へと活かされてきました。





各事業所へのレンタル絵画(折り鶴の貼り絵)

スプレーによる色付けの様子

■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施し意識の向上を図りました。また、利用者支援において事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、今年度、受付件数は0件となっています。利用者さんから、日々、作業や生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付け、一人ひとり面談を行ないながら、随時対応を行なっています。

■感染症対策

感染症対策として、年に一度の健康診断実施やインフルエンザ予防接種の奨励。感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言を受けて、これまでの感染症対策の強化を図り、手洗いうがいや靴底消毒の徹底、毎日の検温等による体調管理、館内の定期的な消毒など、事業所内の利用者・職員共に徹底した対策を実施しています。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、避難訓練を8月・12月の2回実施しています。一昨年に大きな地震を経験したことから、8月の実施には地震からの出火を想定した訓練となり、災害時の対応、避難経路、避難方法、避難先等を再度確認する良い機会となりました。

■年間行事

日時	行事名	備考 (会場他)
4/30	北海道のアール・ブリュット 2019 発行	河上さん作品掲載
5/16~	岩見沢市立図書館アール・ブリュット展	
9/13~19	いわみざわハート&アート 2019	健康ひろば他
10/3~5	みんなあ~と展示部門 入選作品展示	黒壁さん入選
10/3~31	松島正幸記念館アール・ブリュット展	河上さん、佐藤さん展示
11/1	ハート&アート 10 周年記念誌発行	AD 作品多数掲載
11/17~24	岩見沢アール・ブリュット芸術祭 2019 まちなか展示	河上さん他多数展示

■諸会議

- ・事業所会議・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をも とに支援内容等について検討しました。利用者さんにわか り易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケ ー ス 会 議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて 事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・各 担 当 者 会 議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡 大、権利擁護、利用者昼食提供の質の向上、それぞれの目 的に合わせた担当者が出席し、諸会議を月1回実施してい ます。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■支援記録

事業所日誌や日々の支援記録を通して、記録の在り方や適正な記載の方法などを伝えています。1日の作業の内容や出来事だけではなく、どのような工程が出来るようになったか、どんなことへ興味を持って取り組んでいるかなども記載するようにしています。出来ない行動に注目するのではなく、様々な視点からの支援を行ない、記録へと繋げていけるように心掛けています。

■施設整備

- ・各事業所の自転車置き場の木枠塗装
- ・利用者作業場、アトリエ配置換えと整備

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	11	11	11 11		11	11
総支給額	243,200	250,400	283,600	280,400	281,200	286,100
平均額	22,109	22,764	25,782	25,491	25,564	26,009

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	11	11	11	11	11	11	132
総支給額	275,400	281,900	416,200	258,400	273,200	467,100	3,597,100
平均額	25,036	25,627	37,836	23,491	24,836	42,464	27,250

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	9	10	10	10	10	10
総支給額	106,500	98,800	127,700	124,600	121,900	130,500
平均額	11,833	9,880	12,770	12,460	12,190	13,050

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	10	10	10	10	119
総支給額	120,400	126,700	225,000	98,800	127,200	206,700	1,614,800
平均額	12,040	12,670	22,500	9,880	12,720	20,670	13,570

□事業所全体の平均工賃 ¥ 20,410-(21名)

6. 課題

今年度は、工賃向上に向け、企業からの業務委託を安定的にこなしていけるように、設備を整えながら取り組んできました。しかし、製造の数量を意識するあまり、職員の目と手が集中し、他の業務や活動に対する、広い視野を持った支援が行き届いていなかったように感じています。製造に追われる事で、異物混入や器具の点検等、食品衛生管理が疎かにならないよう、安全性に留意した環境を整え、利用者さんと共にやりがいを感じながら、成果へと繋げていけるよう、今後も取り組みを進めていきたいと考えています。

日中活動として創作を進める上で、1点の作品を完成品として創り上げるまでに時間を要し、展示会への作品制作と、絵画レンタルの定期的な入れ替え作品制作との両立が難しく、常に期間に追われている状態が多かったと感じています。また、展示会による、利用者さんの芸術作品の啓発や、活動への成果報告へと繋げることは、確実に増えてきていますが、販売に向けた、アート製品の商品化や営業等を進める事は、なかなか難しく、課題が残ったと感じます。展示会を通して、作品の魅力を伝え、活動内容を外部へ発信していけるように、今後も取り組んでいきたいと思います。

就労事業報告

1. 取組みの概要

■事業班名 下請け加工事業さんさん

「さんさん」では、主に創作作業。館内清掃と介護付き有料老人ホームの清掃委託。クリーンアクトのおしぼり巻き、検品作業。ハードディスクの分解作業。水槽の水替え委託業務を取り組みました。

創作活動では、利用者さんの作品を館内のアトリエや食堂、展示会への出展に向けた作品作りなど、アート製作の活動に日々取り組んでいます。絵の具やサインペンを使用した絵画や立体作品等、個人作品から共同制作など、1点ずつ心を込め、楽しく皆で作り上げ、多くの展示会に出展させていただきました。また、仲間の事業所から絵画の注文を頂き、制作、納品を行なうことが出来ました。年末には、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2020年オリジナルカレンダーを制作、販売を行ないました。お世話になった施設や役員の皆さんへ、法人からの挨拶として、カレンダーをお渡ししています。

アート作品~個性豊かな作品が誕生しました









1年の集大成とも言える、次年のカレンダーを制作し、多くの方の手に取っていただけました。

清掃委託では、アトリエや作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾い等を行ない、皆さんが過ごしやすい環境作りを目指し、取り組んでいます。オアシスのスタッフと連携を取りながら、清掃箇所や清掃場所の確認を行ない、作業を進める事が出来ています。利用者さんが自分の役割りや、チームとしての協力体制、施設外での作業の取り組みへの意識等、やりがいや働きがいを感じながら、日々清掃業務に当たっています。



館内清掃の様子



老人ホーム「オアシス」での清掃の様子

おしぼり巻き作業では、1日7,000本 を目指し、おしぼりにしみやごみが付いてい ないか1枚1枚確認を行なった後、おしぼり 巻き機に流す作業を行なっています。立ち仕 事で、集中力や忍耐・体力を必要とする作業 ですが、日々の検品目標数に達成出来る様、 懸命に業務に取り組んでいます



あかるいどう館内でのおしぼり巻き作業の様子

水槽の水替え交換作業は、水質管理の難しさがありましたが、事業主の指導の下、水の 交換方法、塩分濃度や水質の検査方法を学びながら取り組みを進め、水質を安定させる事 が出来ています。今後は外部に水槽の設置管理を目指していきます。

ハードディスクの分解作業では、工具を使用し分解した部品を素材毎に分別し委託業者 に納品しています。



水槽の水交換・管理委託



分解作業の様子

■事業班名 製造販売事業 にこにこ

食品製造班にこにこでは、利用者さんの昼食製造と、各事業所へ納品するハンバーグや サラダなどの惣菜製造を行なっています。衛生管理をしっかりと行ない、みなさんに安心 安全でおいしい食事を提供できる様、努力しています。





毎日、おいしい食事を提供しています。

2. 成果

活動(製造、創作活動、清掃、委託業務)を通じて、あかるいどうで過ごす利用者さんにとっての、働く事への意欲や芸術作品への創作意識、活動への参加意欲、自身の居場所や生きがい、やりがいを感じられたのではないかと感じます。また、施設外就労で、事業所の外で働くことを通じて、社会的ルール等を身に付ける機会にもなっています。

おしぼり巻き作業は、巻く数も増えてきているので、丁寧さ正確さを維持しながら取り 組んでいきたいと思います。

水槽管理やハードディスクの分解作業にも力を入れ、利用者さんの活躍の場を増やし、

作業環境の整備も積極的に行なうことが出来ました。

9月に岩見沢健康ひろばで行なわれた「ハート&アート展」、11月には、岩見沢市民会館まなみーるで行なわれた「岩見沢アール・ブリュット芸術祭2019」などの展示会に作品を出展させていただき、岩見沢市や他の障がい者事業所と連携し岩見沢市の障がい者アートを盛り上げる事が出来たと思います。

又、10月に札幌の「かでる2・7」で行なわれた「北海道知的障がい者芸術祭 みんなあーと2019」では、ひとりの利用者さんの作品が「北海道知的障がい福祉協会会長賞」を受賞と、地域、北海道を代表する作家が誕生しています。





「岩見沢アール・ブリュット芸術祭 2019」

「みんなあーと」での表彰式と受賞作品

3. 課題

利用者さんの特性に応じた作業内容、ニーズに対応した個々の環境整備や治具、視覚情報の整備が、今後も必要だと感じています。また、アート制作した作品を製品として製造、販売、継続したレンタルへと進められるように取り組み、より利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じています。工賃向上に向けた作業の確保と作業環境の改善へ取り組みを続け、1人ひとりの利用者さんの生活が豊かになるような、支援を目指していけたらと思います。

4. データ

下請加工事業 (業務委託)

利用者実人数:7名

生産活動売上: 299万円 工賃還元額 : 253万円

製造販売事業・下請加工事業(にこにこ・さんさん)

利用者実人数:14名

生産活動売上: 412万円 工賃還元額 : 267万円

令和1年度 わくわくどう 事業報告

1. 1年度事業の総括

平成30年12月にわくわくどうが開設され、初めて4月から3月までの1年を通して、みんなで過ごせた年となりました。活動は、空知総合振興局5階で行なっている「そらかぜ食堂」の運営と市内にあるおしぼり工場「北海道クリーンアクト」での施設外就労に分かれて支援を行ないました。

そらかぜ食堂は、たのしいどうからの活動を含めて今年度で丸5年を経過し、5年の契約期間満了の年となりました。庁舎内職員の皆様の昼食を提供することは勿論、今年度は消費税増税もあり、キャッシュレス対応にも取り組みました。明るく、美味しく、便利な食堂として活動を進めた結果、次年度からの食堂運営の随意契約へと結びつけることができました。これからも皆様に喜んで食べていただける食堂として取り組んでまいります。北海道クリーンアクトでは、おしぼり製品の検品作業の他、回収してきたおしぼりを汚れに応じて仕分けを行なう作業に取り組みました。6名の利用者さんがそれぞれの役割を持ち、また新たな役割へと挑戦しました。G.W.や盆正月の繁忙期に山のように返却されるおしぼりに毎日向かい合い、全てのおしぼりを自分たちが手掛けているという自信が高まっています。どんなに忙しくても全員笑顔で取り組めています。また社内での新たな役割が担っていけるように挑戦を始めているところです。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員14名

3. 令和1年度の利用状況

■わくわくどう全体(定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
開所 日数	25	25	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	294	60.9%
延利用 回数	292	291	295	319	303	294	310	296	303	285	281	313	3,582	

平均実利用数12.2名(小数点第2位以下切り上げ)

14名の登録で利用されています。新たな利用者の受け入れはありませんでしたが、年間通して、施設外の場で活動を続けることができています。

■就労継続支援事業 B型(定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
開所 日数	25	25	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	294	60.9%
延利用 回数	292	291	295	319	303	294	310	296	303	285	281	313	3,582	

平均実利用数 12.2名(小数点第2位以下切り上げ)

4. 取組みの概要

■利用者支援

□事業所内での生産活動

・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局 5 階にて、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。これまでの営業で蓄積したデータをもとに、売れ筋の商品は固定化し、毎月「期間限定メニュー」として、新商品の開発・販売を進めました。職員の異動などで固定客は定期的に入れ替わりがあるようですが、年間通して安定した利用をいただけています。10月に消費税増税が行なわれ、大部分のお客様がイートインとして税率10%の増税対象となる為、客離れが心配されましたが、価格調整を行ない、例年と変わらない利用をいただけています。また、並行してキャッシュレス導入を行ない、年度内に開始することができました。

□施設外就労支援

・北海道クリーンアクトでの施設外就労作業

わくわくどう開設から新たな作業として取り組んだ「おしぼり仕分け作業」を年間通して取り組みました。G.W.、お盆、正月には、人の外出数をおしぼりの数で表したかのように毎日、作業スペースがなくなってしまうほどのおしぼりに向かい合い仕分けを行ないました。年明けからは、新型コロナウイルスの流行が発生し、これまでの衛生管理だけではなく、ゴーグルの着用や次亜塩素酸水の噴霧器の設置など事業所としても企業としても、衛生面でのケアを強化して対応を進めていきました。より質の高いおしぼりを提供するために、お客様が気持ちよく使っていただけるように目を凝らしてみんなで仕分け作業・検品作業を行なっています。

■権利擁護

・利用者さん14名。そらかぜ食堂8名、北海道クリーンアクト6名に分けられることもあり、それぞれの現場で少人数での対応が行なえています。少人数での長い活

動時間を共に過ごしていると人間関係の距離が近くなっていきます。支援中の声掛け・働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考えて行動するように機会を持っています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。日々利用者さんの悩みや相談の聞き取りをしています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや一般就労へ繋がる不安や悩み、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応と見守りを行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもいらっしゃるので、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんとも情報の調整を行ない、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りに今後も努めます。

■災害対応·事故対策

今年度は、消防の立ち合いのもと避難訓練を2回実施できています。同建物を利用されている業者との合同避難訓練は実施できませんでしたが、通報方法や避難口を塞がれてしまった際の脱出方法など「あるかもしれない」実践想定で訓練を行なうことができています。

事業所としては、まだまだ経験が少ないため、消防の経験をもとに様々な想定を訓練や防災対策を進め、同時に、作業活動先での避難方法なども訓練時に伝えていけるよう取り組みます。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・事業所会議・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をも とに支援内容等について検討しました。利用者さんにわか り易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケ ー ス 会 議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて 事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・各 担 当 者 会 議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡 大、そらかぜ食堂の運営、企業就労者支援、利用者昼食提 供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、 諸会議を月1回実施しています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	14	14	14	14	14	14
総支給額	448,600	411,200	451,200	441,900	442,200	447,900
平均額	32,043	29,371	32,229	31,564	31,586	31,993

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	14	14	14	14	14	14	168
総支給額	413,800	440,400	980,600	381,000	460,800	671,800	5,991,400
平均額	29,557	31,457	70,043	27,214	32,914	47,986	35,663

□事業所全体の平均工賃額 ¥35,663/月(14名)

5. 課題

実質の初年度となった1年ですが、利用者さんに安定して工賃をお支払いすることができています。

そらかぜ食堂は、今年度で食堂運営の委託契約が満了となる年でした。そらかぜ食堂のこれまでの5年間の実績を含め、これからも契約の継続が行なってもらえるようにと早くから調整を行なっておりましたが、難航し、最終的には、法人と振興局との協議の上、次年度から随意契約にて契約を継続してもらえることとなりました。障がいのある方たちの「はたらく場」がどんな事情であっても不安定なものではこれまで時間をかけて積み上げてきた利用者さんの経験全てを失ってしまいます。利用者さんを支援する環境としては安定して継続できるように整えなければならないことを痛感致しました。

北海道クリーンアクトでの施設外就労では、今年度、1年間を通じての作業を経験することができました。毎年、必ずしも同じ量の作業とはならない部分もあるようですが、 繁忙期のおしぼり仕分け作業も出荷前の検品作業も会社の求められる数量をこなすことができました。今後、さらに製品の質の向上に向け、役を担える活動として発展していければと感じています。

就労事業の報告

■事業班名:そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

空知総合振興局食堂の運営も契約期間とされる5年目を迎えました。次年度の契約を継続してもらえるように、来店される方たちに楽しみのある新商品のメニューの展開や季節イベントの企画など、「また、行こう」と感じてもらえる食堂作りに努めました。









えび天鍋焼きうどん

とろろそば

エビ味噌ラーメン

多彩な小鉢

2. 成果

年間来客数は、延べ人数2万人超えの20,427人。売上げは 1,074万円となりました。今年度は、10月に消費税が増税さ れ、消費価格の見直しや軽減税率への対応に合わせ、キャッシュレ スの対応も行ないました。手続きに時間がかかりましたが、年度内 にキャッシュレス導入ができ、お客様にご利用いただいています。

年度末には、新型コロナウイルスが流行し始め、衛生面でもこれまで以上にケアをするようになりました。お客様同士の接触機会を減らすなどの対応を行ないました。

3. 課題

今年度、契約期間(5年)満了の年度でした。契約期間満了を迎える度に、更新してもらえるかどうかと心配をする不安定な場では 利用者さんに安心して利用してもらえる場にならないことを痛感

令和1年度年間ランキング

1位~B定食 (32.3%)

2位~A定食 (30.0%)

3位~カツカレー (6.2%)

4位~カレーライス (4.3%)

5位~しょうゆラーメン(2.5%)

6位~みそラーメン (1.8%)

7位〜鍋焼きうどん (1.8%)

8位~特盛ざるそば (1. 7%)

9位~カレーそば (1.2%)

冷やしラーメン (1.2%)

(1.3%)

(%はオーダーに占める割合)

かけそば

致しました。障がいのある方の「はたらく場」としての環境を永続的に保ってこその支援や生産活動となるので、今後も場所を提供してくれる北海道や利用していただくお客様とのつながりを大切に活動してまいります。

4. データ

利用者実人数:8名

生産活動売上:1,074万円

工賃還元額 : 378万円

■事業班名:施設外就労

1. 取組みの概要

市内にあるおしぼり工場(北海道クリーンアクト)にて、利用者さんが行なう作業を業務委託で請け負っています。おしぼりの汚れの度合いやおしぼりの種類の見極め方など判断が難しい仕分けも経験を積みながら、作業に参加する全員で確認を進めて精度を上げていきました。検品作業では商品の最終チェックとなるため、異物混入などがないように1本1本目を凝らして毎日チェックを行ないました。



2. 成果

検品作業・仕分け作業では、出荷した全てのおしぼり 1 本 1 本 1 枚 1 枚に触れ、約 3 0 0 万枚以上の製品を仕分け・検品できたことは利用者一人ひとりに大きな自信と自覚をもたらしたようです。

土曜日作業では平日にやり切れない回収したおしぼりの袋出しを実施。これまで土曜日作業に参加しなかったメンバーが「自分たちの仕事」と自覚し、参加してくれるようになりました。また、そらかぜ食堂のメンバーが袋出しを手伝ってくれた姿を見て、袋出しのない土曜日にはそらかぜ食堂の掃除に参加してくれるメンバーも出てくるようになりました。



出荷して回収されてき たおしぼり

3. 課題

おしばり検品作業や分別仕分け作業は、この1年間で利用者に 大きな自信を付けることができました。しかし、今年度の終わり から流行し始めた新型コロナウイルスの影響は飲食店を直撃し、 そこで使用してもらうおしぼりの利用にも大きな影響を落とし ています。私たちにできることは、少しでも感染リスクを下げて 業務を進められるように努力するという状況に直面しています。



作業場にクリーンアク トさんが設置してくれ た次亜塩素酸加湿器

4. データ

利用者実人数:6名

生産活動売上: 229万円 工賃還元額 : 220万円

令和1年度 歩~夢 事業報告

1. 令和1年度事業の総括

令和1年度の運営については、宿泊体験は定期的に利用していただける方の利用は増え てきましたが、新規での高等養護学校や相談支援事業所からの受け入れは少なくなってい ます。ですが、将来的にグループホームでの生活を考えている方の見学や卒業後の相談や、 自分のお子さんがどのようなライフステージを踏んでいくのかなどの相談が増えていまし た。

余暇支援の面では、定例の行事のほかに、利用者全体に参加したい行事を選んでもらい、 実施をしています。さくらんぼ狩り、サッカー観戦、ルスツリゾート、劇団四季の鑑賞な どを行なっています。少人数で動くことによって利用者のニーズに答えることが出来てい たと思います。

全体的な利用者支援については、利用者さんの年齢が上がってきていること、体調不良 の変化をうまく伝えることのできない方も多いため、些細な言動や行動に気を付けて支援 をしていくことや、人間ドックの受診などを組み込みながら委託医とも相談を行ないなが ら支援を行なってきました。

今後も余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防 止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活援助事業所(合計定員40名)※宿泊体験4名含む

春が来た荘 定員5名 現員3名 (宿泊体験 1名)

夏色荘 定員5名 現員5名

秋いろいろ荘 定員5名 現員3名 (宿泊体験 2名)

冬暖か荘 定員5名 現員4名 (宿泊体験 1名)

ハラダハイツ 定員2名 現員2名

コーポハラダ 定員2名 現員2名 桜なごみ荘 定員4名 現員4名

もみじ色づき荘 定員5名 現員5名

ふきのとう 定員3名 現員3名

みないい荘 定員4名 現員4名

春が来た荘

秋いろいろ荘

冬暖荘

ハラダハイツ コーポハラダ 桜なごみ荘 もみじ色づき荘

みないい荘























3. 令和1年度の利用状況

※定員40名(宿泊体験5名:4月~3月)※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	39	39	41	41	39	40	44	40	37	39	38	37	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	1,030	1,055	1,054	1,075	1,038	1,043	1,100	1,029	1,018	991	957	1,026	12,416

※平均実利用者数 34名(小数点第2位以下切り上げ)

※平成31年4月から令和2年3月まで退所された方は男性2名、女性1名

企業就労されている方も含め、長期の帰省をされる方が少なくなって来ています。ご家庭との連携を念頭において、今後も一層余暇時間の充実など生活支援の重要性が増してくるものと思われます。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	3	6	5	3	4	8	5	2	4	4	1	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	9	10	23	12	10	12	24	17	7	10	14	3	151

昨年度に比べると、宿泊体験の利用は増えていませんが、毎月定期的に利用していただいている方やグループホームの利用に関して身近に感じ利用してくださる方が多くなっています。

宿泊体験の相談としては、家庭状況を考えた将来的利用に向けたケースや、学校からの 卒業後の利用ケース、相談支援事業所からの新規の受け入れについてなど様々な相談や見 学などがありそれぞれ対応をさせて頂きました。

ご家族の高齢化に伴い宿泊体験の希望も増えていくのではないかと考えていますが、令和元年度は、男性住居の空部屋の確保が難しく、男性は1部屋のみで女性の対応が中心でした。令和2年度からは男性の居室が3部屋になった事でニーズに一人でも多く対応できるようになりました。

4. 取組みの概要

■利用者支援

昨年度に続き、南町のエリアと市内中心部を拠点とした支援を行なっています。職員の動きについては連絡ツールが整い、互いに連絡を取り調整を行なう事で効率よく支援ができるようなっています。一方、利用者さんの加齢などにより食事や入浴などの基本的な日常生活動作に手添えや介助などが必要なことが増えていることから、将来の住環境整備も課題として検討していく必要を感じています。また、日々の挨拶や町内会の清掃活動を引き続き行なっている中で、皆さんから少しずつ気にかけて頂いくことも増えてきたように思います。今後も継続して地域社会の一員として役割を行なえるように取り組みます。

■権利擁護

前年に引き続き、世話人を含むすべての歩~夢スタッフを対象に、権利擁護や虐待防止 についての内部研修を実施しました。今年度、職員の外部研修への参加が少なくフィード バック研修する機会がありませんでしたが、常に専門職としての知識や意識の向上に努め ています。

定例の会議内で、ニュースなどで報じられた虐待の事例、福祉制度の情報などを施設長より話され、パートの世話人に至るまで一定の学習の機会を持てたと思います。

■苦情解決委員会

今年度の苦情件数は1件、要望が2件となっています。苦情については、利用者さんから職員同士での伝達に関する内容について上がりました。通院日の調整や薬の残数などスタッフに伝えたが、伝わっていなかったとの内容です。薬の残数や、通院日など誰が見ても分かりやすいように工夫しています。その他にも個別面談の時間を設けるなどして、一人一人と会話の時間が取れるよう工夫しています。

又、自分から訴えられない方については、日々の会話から内容をくみ取り、必要に応じ て時間を取り、聞き取りなどの対応を行なうようにしています。

■感染症対策

感染症対策としては、今年度もインフルエンザの予防接種を行なっています。長期の帰省や就労先等でインフルエンザにかかり帰省から戻るのが遅くる方や仕事をお休みされる 方はいましたが、グループホーム内で流行することや重篤になる方はいませんでした。

他の感染症につきましても、毎日うがい、手洗いの声掛け加湿・換気・消毒などの対策 のおかげか、グループホーム内で大きく流行することはありませんでした。

今後も継続して行ない、食中毒やその他の衛生面についても対策を講じていきたいと思います。

また、新型コロナウイルスの感染予防に関して、朝と夜にチェックシートを使用し検温

と体調の確認を行ない、グーループホーム全体の消毒に努めています。買い物・外出・帰省などについても各家庭にご協力を頂きながら制限を行なっています。

■災害対応·事故対応

防火訓練では、各住居にて避難訓練を行ないました。実際に消防署に通報するところまでやってもらい、皆さん真剣な表情で取り組むことが出来ていました。

秋は実際の地震災害を思い出しながら、全員で防災の DVD を見ています。あらためて地震の怖いところ、実際に地震にあった場合どのような行動をするべきかを勉強しています。また実際に非常用備蓄食品を全員で作って食べています。皆さん興味津々で楽しそうに作っていました。







避難訓練







消火器訓練·非常用備蓄食品

災害対応については、強風により電線が切れ、一時停電になる場面があり、復旧まで暗闇の中過ごすことになってしまいました。今後の対策として、暖房器具や照明用の電気として、家庭用蓄電器を購入しています。また、大雨により道路が冠水状態になることがありましたが、利用者に電話連絡をし、外出をしないよう伝えるなど、迅速に対応しています。

■年間行事

令和元年度	内 容
4月16日	誕生会(各月行っている)
5月1日	春の消防査察

5月3日 母子交流 5月3日 GW ドライブ (宝水ワイナリー) 5月4日 GW 外食 5月5日 GW バーベキュー 5月6日 GW 温泉外出 5月13日 夕張ドライブ 7月14日 さくらんぼ狩り 7月25日 避難訓練 8月9~10日 歩~夢お盆旅行 8月31日 | ルスツリゾート 9月1日 劇団四季 秋のバーベキュー大会 9月15日 あかとき学園祭外出 9月21日 10月5日 登山(樽前山) 10月12日 赤い羽根共同募金 (コープさっぽろ) 10月11~12日 利用者個人旅行 10月22日 赤い羽根共同募金 (コープさっぽろ) 災害想定避難訓練 10月30日 11月23日 サッカー観戦 11月16日 ティーボール交流試合(雪の聖母園) 12月1日 ティーボール大会 12月13日 歩~夢忘年会(とんかつ富士) 12月31日 年越し外食 1月1~2日 初詣 2月15日 わかさぎ釣り 3月31日 健康增進法案説明会

令和元年度の余暇活動 としては、12月1日に 「ティーボール北の甲子 園」が札幌ドームにて開催 されました。今年度は、メ ンバーが減り9人になっ てしまいましたが、練習で





は、誰もくじけることなく頑張ることができ、練習試合でも手応えを感じることが出来ていました。

試合では一年間の練習の成果を発揮し健闘したものの、1回戦敗退という結果になって しまいました。皆さん悔しい思いをしましたが、この悔しい思いをバネに1年間練習に励 んでいきたいと思います。



今年度は、利用者さんの参加が多くなるように外出計画を多く企画しました。また、利用者さんにどの企画に参加したいかを選べるようにさくらんぼ狩り、ルスツリゾート、サッカー観戦、劇団四季など4つの選択肢を設けました。

また、本人達のニーズを聞き取り、仲の良いメンバーでの旅行なども行なっています。 全員の希望を叶えることは難しいですが、今後も数名ずつでも、本人さんたちの希望に 添える活動が出来たらと考えています。

■諸会議

- ・法 人 全 体 会 議・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心

に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方など の協議を行ないました。

- ・世 話 人 会 議・・月1回実施。世話人を中心に、法人全体会議や事業所会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有を行なう為、会議様式の見直しを行ない支援がブラインドにならないように努めました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもと に支援内容等について検討しました。
- ・ケ ー ス 会 議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有して、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給 食 会 議・・各事業所担当者で翌月の献立について調整をしています。
- ・権利擁護担当者会議・・各事業所の苦情解決受け付け担当者と月1回苦情内容や権利 擁護についての打ち合わせや確認事項を話し合っています。

■健康管理

定例の健康診断を実施しています。再検査が必要な方などのデータを嘱託医に診て頂き、相談をさせてもらいました。昨年度に続き、体重増加や血圧が高めで再検査を行なった方が多く、毎日血圧を測り日々の状態を確認し対応をしています。また年々服薬を必要とする利用者が多くなっており、日々の服薬の確認、管理がとても重要になっていると思いました。

徐々に高齢期に向かわれている方も多くなってきたため、目の病気、生活習慣病にも気 を配り適切な対応を行なっていく必要があると思いました。

また、岩見沢市より年齢を対象とした人間ドックなどの案内が来た為、受診を行なっています。今回の人間ドックの検査により大きな病気が見つかった方もいました。多少費用は掛かりますが、年令に問わず一人ひとりの健康維持の為の重要性を感じました。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、昨年度に引き続き、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載を行なっています。

家庭と調整については、数名の利用者さんに対し連絡帳を使用してご家庭とのやり取りを行ない、日々の体調の変化などについてお伝えをしています。

宿泊体験の対応についても、自分の意思がうまく言葉に出来ない方もいますので、年度 途中から連絡ノートを作成しご家族との情報交換が行なえるようにしました。

■職員研修

内部研修については、定例の世話人会議の中で、主に権利擁護や職員向けの健康増進法についての、研修を行ないました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加)	7.) . Z	. 41	40 TH	1.
** TIII I	7-	T. 7	201	.) / (/ 	·///>
<i>~~</i> //⊔	//	T /	↓ / Γ	* H 13/11/11	11/2

平成31年度全道施設長セミナー

全国知的障害関係施設長会議

権利擁護セミナー

全道知的障がい関係職員研修会

地域支援セミナー

幹部職員研修会

全道グループホームスタッフ研修会

災害対策研修会

全国大会

施設職員スキルアップ講座

加齢化支援研修会

社会福祉法人向け実務実践セミナー

発達支援研修会

人権セミナー

相談支援従事者現任研修

道福協全道施設長研修

障がい者就労支援セミナー

空知しょうがい者就業・生活支援センター「ひびき」連絡会議

南空知圏域感染症予防研修会

■施設整備状況

古い建物や設備の維持管理が大きな課題となっています。外壁や屋根などの大掛かりな営繕は時間と費用が掛かる為計画的に進めていく必要があります。

今後の後期高齢化もふまえた利用ニーズとしては、バリアフリーや高機能な設備の整った拠点機能のあるグループホームの整備を検討したいと考えています。

また、寒い時期に停電の体験をしたことで、電気の必要性を再認識し家庭用の蓄電池を 購入させていただき、少しでも利用者さんの不安解消になればと考えています。

令和1年度 地域生活支援事業 楽らく 事業報告

1. 令和1年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業楽らくは、三笠市、栗山町と委託契約をし、様々な余暇活動を実施しました。20名の定員として、事業を実施しておりますが、毎月沢山の希望者がご利用頂いております。少しでも参加された方々が楽しみ、充実した余暇の時間が過ごせるよう、取り組みを進めています。



オリジナルマスク作りの様子

2. 実施事業

□日中一時支援事業

定員20名(岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく)

3. 令和1年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	22	32	28	32	29	28	30	29	26	24	30	21	
延利用 回数	65	99	99	88	99	74	92	80	74	71	107	67	1,015

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間47回実施しました。

4. 取組みの概要

季節に因んだ果物狩りや制作活動、お菓子作り等をメニューに取り入れ、利用者さんが 週末の余暇を楽しみに、日頃の作業や活動へと参加出来る様、充実した企画を毎月考え、 実施しています。利用者さんの要望も取り入れ、カラオケやボーリング、イベントへの参 加等、外出メニューを多く積極的に取り入れています。

外部講師を招いて行なうメイク教室は、毎年好評を頂いており、利用者さんのメイク技術 も年々腕を上げてきています。メイクにより綺麗になる姿を、とても楽しみにされている のが、何より嬉しいと感じています。

5. 成果

時季に応じた限定メニューとして、いちご狩りやぶどう狩り等の外出、ハイジ牧場でのバター作り体験等を通じて、仲間と一緒に楽しむ余暇時間を提供出来たと感じています。 様々な企画の提案が出来た事により、利用者さんが参加の有無を選択し、様々な取り組みに興味を持って頂き、活動や余暇の充実へと結びついた一年でした。



果物狩りの様子

バター作りの様子

6. 課題

メイク教室や体を動かす活動の支援も含め、継続して行なうことで積み上げていけるメニューは、利用者さんにとっても有意義であると思われます。内容に飽きが出ない様、普段なかなか経験の出来ない活動を提案し、季節感や気持ちのリフレッシュを楽らくを通して行なえたらと思います。コロナウイルス感染症予防のため、年度末から外出自粛や活動環境への配慮や改善等により、利用者さんに満足して頂けるメニューの提供が行なえていない状況も続いていますが、興味や余暇の充実、満足感へと繋がる工夫を模索し続けていきたいと考えております。